徒然草　授業プラン　（５（９）時間）

　日本人のものの見方や価値観に少なからぬ影響を与えている中世随筆の中でも、最重要作品といってよい本教材を通じて、感受性の涵養、思考の深化、視野の拡大等の生徒の内的変容を目指す。源氏物語や女流日記などに比べれば読解は容易であり、知識面でも新出のものは多くないが、文章の本質的理解に踏み込むためには、単元設計段階での工夫が不可欠である。「序段」の暗唱、「丹波」「ある人、弓」の構成的ＡＬに加え、最後の教材「花は盛りに」は、機能単元として芸術科（音楽）との協働、教科融合での設計を試みる。

　１時間目は導入として、序段の暗唱による、体験的な理解、古文特有の音感覚の習得をねらいとする。生徒が先生役となることでの協働の要素を織り込み、同時にそれを動機づけの一つとする。

　２時間目は、問いづくりを通じた古典テクストの分析と再把捉から、それを根拠とした仮説構築とテクスト内容の再検討・再評価を試みる。ラーニングサイクルを活用。

　３、４時間は、＊「現代に生きる知恵としての古典の捉え」に、複数の視座からの再把捉によって取り組む。九十二段が伝える教訓の意義、普遍性、時代性などを、身近な経験と関連させ、批判的にまた共感的に、いずれも論理性を重視しながら、再検討・再評価する。また、自己と他者のものの見方と、それぞれの妥当性について考えるとともに、教材文中のことばへの認識の深化・拡大と関連する経験的世界の言語化を通じて、思考の深化、視野の拡大等の生徒の内的変容を目指す。なお、立論演習にはトゥールミン・ロジックを活用する。

＊参考　「国語科授業活性化の探求Ⅱ　古典を学ぶ意味」（渡辺春美1998.8）

「現代は過去に支えられているという事実に気付く」「過去の人物を通して、普遍的な人間性に気付く」「現代にも生きている過去の人々の知恵に気付く」「古典を通して新たなものの見方・感じ方・考え方に気付く」

　５時間目は「花は盛りに」についてジグソー法を用いて学習し、次時以降の基礎資料づくりにあてる。

６～９時間目の機能単元は別途単元設計を行う。

◎１時間目　序段の暗唱による、体験的な理解、古文特有の音感覚の習得

○序段の暗唱テスト　【個人】　（前半２５分）

口語訳配布

不合格：間違える、３秒止まる。

廊下で待機する授業者により暗唱テスト。

合格者先着十名は試験官となって、他をテスト、平常点＋。

○丹波、ある人、弓　本文配布　ノート貼付　訳出　【個人】

◎２時間目　「丹波」問いづくり　素朴な疑問　仮説構築（＊ラーニングサイクル）

準備物（ＷＳ１　資料１）

○音輪読（三度読み）　読み方確認　（６分）

○確認＆トリガーＱ　【ペア】　（時間は柔軟に）

　・丹波の訳で確認したいところある？

・この章段の教訓は普通に考えると？

　＊パートナーと確認

○素朴な疑問　【ペア】【グループ】　（時間は柔軟に）

・違和感ない？　（よいものはクロストークで拾いたい）

・上人は？高僧　出雲は？神社　ゆゆしく信起こしたり？

・上人＝高僧　ものを知らない、愚かな者？

・そもそも狛犬の向きが違っていると分かるということは？

（狛犬の向きが互いに向き合うものであるという知識をしっかりと持っているからこそ、狛犬の向きが違っていることにこだわることができる）

・狛犬、重さは？

＊パートナーと確認

・兼好は聖海上人の愚かさを笑ったのか？

・そうでないとすれば？

○仮説構築「丹波」章段の分析からの再把捉・再評価　別な「読み」の発見

個人で仮説構築→グループでシェア　【個人】（６分）→【グループ】（４分）

　丹波の教訓は、実は【　　　　　　　　　　　】だったのでは？　なぜなら根拠

仮説：聖海上人の失敗は、ものを知らない愚かさから起こったのではなく、出雲大社への信仰心をもち、狛犬についてもよく知っていることから起こったものであったといえるのではないか。

この話は、知ったかぶりをする愚かな者を笑った話、と読むのではなく、ものを人並み以上に知っているがゆえにかえってものを見誤ってしまうことがある、と読めるのではないか。無知であるがゆえの愚かさもあるが、もう一方にものを知っているがゆえに犯す過ちもあることを兼好は見抜いていたのではないだろうか。智者が愚者を笑う、という図式では、『徒然草』の面白さは見えてこない。

○検証　資料１　「兼好は聖海上人の愚かさを笑ったのか」　配布　黙読

筑摩書房の教科書サイト　「文章に即して古典を読む」加藤郁夫

　＊ラーニングサイクル人文分野　観察→仮説構築→方略設定→実践・検証→考察→表現

◎３時間目　現代に生きる知恵としての古典の捉え　複数の視座からの再検討・再評価

準備物（ＷＳ２、Ａ４用紙たくさん、マーカー、ルーブリック）

○音輪読（三度読み）【ペア】　読み方確認　（６分）

○トリガーＱ　　（３分）

　この章段の教訓、兼好の意見・主張は？

○兼好の次の意見について、⑴賛成・共感的立場から、⑵反対・批判的立場から、立論(claim)する。必ず、＊具体例（data）と根拠の論理性・理由付け(warrant)を示すこと。トゥールミン・ロジックの活用　【個人】（１５分）

・「この戒め、万事にわたるべし。」

・「なんぞ、ただいまの一念において、ただちにすることのはなはだ難き。」

＊舞台とテレビ、スポーツの試合場面などが考えられるか。

○グループ（一班５人、８班）で訳確認後、各人の意見をシェア。

グループとしての意見をまとめ、ＫＰによるプレゼンを準備。【グループ】（２０分）

　プレゼンは一班につき３分　絵もしくは端的な語句をＡ４用紙に

◎４時間目

準備物（自己・相互評価票、口語訳、磁石）

○音輪読（三度読み）【ペア】（４分）

○ＫＰ準備・最終打ち合わせ【グループ】 （２０分）

○プレゼン

　４班ずつに分け、それぞれでプレゼン

プレゼン一班につき３分＊４　評価と切り替えに各１分　（４分＊４＝１６分）

○口語訳確認と振り返りのための自己評価

　訳配布　自己評価記入　（５分）

※ＫＰ、自己相互評価　提出

◎５時間目　基礎資料づくり　ジグソー法による口語訳

準備物（ＷＳ３（ジグソー用）、口語訳）

○エキスパート活動　口語訳

Ａ：Ｐ６５Ｌ１～Ｌ７　　Ｂ：Ｐ６５Ｌ８～Ｐ６６Ｌ３　　Ｃ：Ｐ６６Ｌ４～Ｌ１６

　・個人訳出　（６分）

　・協議・確認　（８分）

○担当箇所以外のスピード訳　（８分）

○ジグソー活動

　エキスパートが解説（４＊２＝８分）

○音輪読　三度読み　（７分）

○質疑

◎６～９時間目　機能単元「感性を高める」美意識の追究